

事務事業名	長寿命化修繕計画策定事業	所属部	建設部	所属課	業務管理課	
総合計画体系	政策名	〈Ⅱ〉環境に配慮した安全・快適な生活環境づくり〈定住環境〉	所属G	維持管理G	課長名	菅田 雅人
	施策名	〈07〉道路網の整備	担当者名	陶山 透	電話番号	0854-40-1061
	目的	对生活道路(市道・一般県道)の利用者	意図	市内を安全で迅速に移動できるようにする。	(内線)	3733
	基本事業名	〈019〉道路の補修・維持管理	予算科目	会計 款 大事業 大事業名 0 1 4 0 0 2 項目 中事業 中事業名 1 0 0 5 0 6	道路橋梁総務管理事業 長寿命化修繕計画策定事業	
目的	对生活道路	意図	適正に維持管理する。			

1 現状把握【DO】

(1) 事業概要

① 事業期間
<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input type="checkbox"/> 単年度繰返 (年度～)
<input checked="" type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (22 年度～ 25 年度)
② 事業内容 (期間限定複数年度事業は全体像を記述)
① 橋梁点検 ② 健全度評価・劣化予測 ③ 検討委員会の開催 ④ 計画策定と公表

(2) 事務事業の手段・指標

手段	① 主な活動	24年度実績(24年度に行った主な活動)	25年度計画(25年度に計画する主な活動)			
		橋梁データベース作成 橋梁点検	橋梁データベース作成 橋梁点検 修繕計画策定			
② 活動指標		単位	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(計画)
ア	橋梁点検数(委託)	橋	41	24	51	31
イ	橋梁点検数(直営)	橋	133	120	0	0
ウ	長寿命化修繕計画策定数	件	0	0	318	400
エ						

(3) 事務事業の目的・指標

目的	① 対象(誰、何を対象にしているのか)	③ 対象指標	単位	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(計画)	
	①生活道路の利用者 ②生活道路	ア	人口【国勢調査(推計)】	人	41,917	41,159	40,548	40,440
		イ	市道延長	m	1,155	1,155	1,151	1,157
		ウ						
② 意図(対象がどのような状態になるのか)	④ 成果指標	単位	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(計画)		
①市内を安全で迅速に移動できるようにする。 ②適正に維持管理する	ア	生活道路が安全で便利だと感じている市民の割合	%	57.1	55.7	56.9	56.9	
	イ	生活道路で危ない場所があると感じている市民の割合	%	70.4	70.8	72.5	72.5	
	ウ							

(4) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (24年度決算)	② コストの推移	単位	22年度(決算)	23年度(決算)	24年度(決算)	25年度(計画)	
【委託料】6,000千円 【使用料】268千円	財源内訳	国庫支出金	千円	2,000	2,525	3,900	1,300
		県支出金	千円				
		地方債	千円				
		その他	千円				
	一般財源	千円	2,273	1,628	2,368	969	
	事業費計 (A)	千円	4,273	4,153	6,268	2,269	
人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1		
	延べ業務時間	時間	20	20	50		
	人件費計 (B)	千円	78	79	196		
	トータルコスト(A)+(B)	千円	4,351	4,232	6,464		

(5) 事務事業の環境変化、住民意見等

① 環境変化 (この事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?)	② 改革改善の経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)	③ 関係者からの意見・要望 (この事務事業に対して市民、議会、事業対象者、利害関係者等からどんな意見や要望が寄せられているか?)
平成19年度に長寿命化修繕計画策定事業費補助制度要綱が制定され、従来の事後的な修繕及び架け替えから予防的な修繕及び計画的な架け替えへと円滑な政策転換を図るとともに、修繕及び架け替えに係る費用の縮減を図る。	計画策定の根拠となる橋梁点検について、県主催講習会に参加することにより職員の点検技術の向上を実施した。	議会より市道橋の修繕指摘があった。

事務事業名	長寿命化修繕計画策定事業	所属部	建設部	所属課	業務管理課
-------	--------------	-----	-----	-----	-------

2 事後評価【SEE】

A 目的 妥当性	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？ 意図することが結びついているか？		見直し余地があるとする理由	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている * 余地がある場合⇒		
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して達成する目的か？			
B 有効性	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加する必要はないか？意図を限定・拡充する必要はないか？			
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である * 余地がある場合⇒		
	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？ 成果を向上させるため現在より良いやり方はないか？ 何が原因で成果向上が期待できないのか？			
C 効率性	<input type="checkbox"/> 向上余地がある	理由	橋梁調査が終了後、修繕計画を策定する。予防的な修繕及び計画的な架け替え等を行うことで経費削減を行うものであり成果は最大である。	
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない			
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 この事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？		理由	時限措置として平成25年度までと定められているため、年次計画を立て事業推進する必要がある。
<input type="checkbox"/> 影響無	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有			
D 公平性	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的達成には、この事務事業以外の手段(類似事業)はないか？ ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか？		理由	
	<input type="checkbox"/> 他に手段がある * ある場合⇒	(具体的な手段や類似事業名)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない	市道橋梁独自の事業であり類似事業がない。		
A 目的 妥当性	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)		理由	
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	橋梁調査が終了後、修繕計画を策定する。予防的な修繕及び計画的な架け替え等を行うことで経費削減を行うものであり成果は最大である。		
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない			
B 有効性	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか？ 正職員以外や外部委託ができないか？		理由	
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	既に委託業務を行っており、これ以上の人件費削減余地はない。		
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない			
C 効率性	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？ 受益者負担が公平・公正か？		理由	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	利用者が市内を安全で迅速に移動できるようにするものであり、公平・公正である。		
	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である			
評価 の 総 括	① 1次評価者としての評価結果		② 1次評価結果の総括(根拠と理由)	
	A 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり		
		B 有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	
		C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	
		D 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	
計画的な橋梁調査が行えており、未調査についても平成25年度中に完了する予定である。また橋梁長寿命化修繕計画も平成25年度に策定予定である。				

3 今後の方向性【PLAN】

① 1次評価者としての事務事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可		② 改革・改善による期待成果																			
<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 目的再設定	<input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携																		
<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善)	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善)	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善)	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)																		
時限措置として平成25年度までと定められているため、橋梁長寿命化修繕計画を策定し年次計画を立て事業推進する必要がある。																					
		<table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト				削減	維持	増加	成果	向上			維持	●	×	低下	×	×
	コスト																				
	削減	維持	増加																		
成果	向上																				
	維持	●	×																		
	低下	×	×																		
<p>廃止・休止の場合は記入不要。 コストが増加(新たに費やし)で成果が向上しない、もしくはコスト維持で成果低下では改革・改善とはならない。</p>																					